



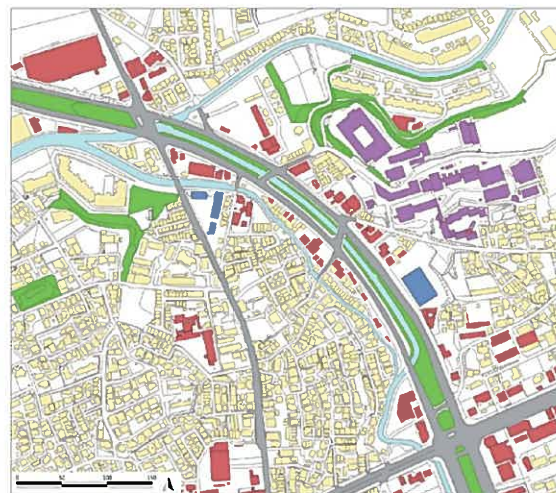
緑の島 GREEN ISLAND

問題意識

近年、大阪のヒートアイランド現状が厳しくなっている。この状況は都心の商業区域ではなく、都心以外の住宅区域でヒートアイランド現状も顕在している。どのようにヒートアイランド状況を緩和し、適切な住宅環境を創出することが重要な問題になっている。

対象地

大阪府堺市西区北条町1丁で百済川の河川空間がある。この地域では主要な地方道路（狭山線34番通り）を経る。対象エリアの周辺で大きい住宅区があり、二つの学校と二つの病院がある。
百済川（くだらがわ）は石津川の支流であり、大阪府堺市中部を流れている。百済川の支流が対象エリアの中に流れて、豊かな河川空間が広がっている。



- 住宅
- 河川
- 商業施設
- 学校
- 主要道路
- 現有的緑
- 病院

現状問題

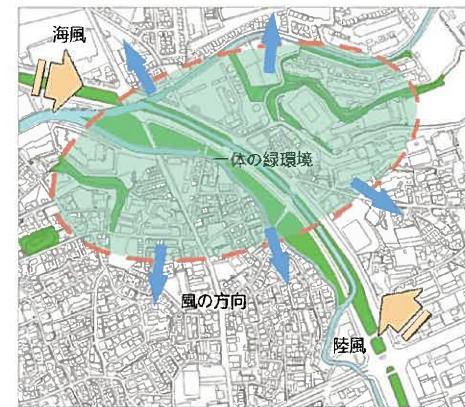
このエリアで多い住宅があり、道路の両側は商業施設も多い。主要な地方道路があるから、車も多い。また、市街地には大きい公園がなし、緑地の面積も少ない。そのため、熱環境が顕在している。



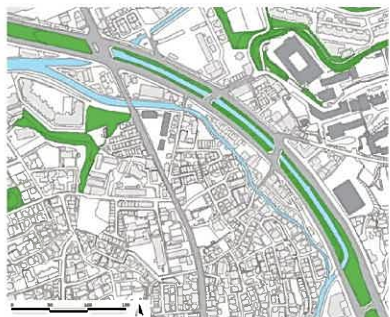
広く道路空間では緑量が不足して、蔭がないから、熱環境が顕在している。

プログラム

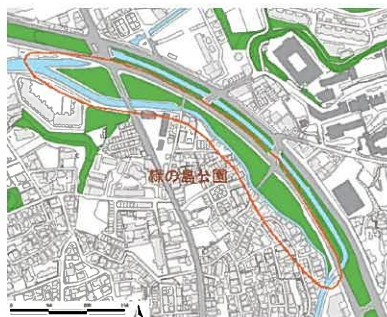
- 大範囲の風の循環
市街地の熱環境を緩和するために、道路の緑空間と周辺の緑地及び河川がつながり、一体の緑環境を創出する。
昼に西側の海風や夜に東側の陸風と創出する緑環境の風循環を利用し、熱環境を緩和する。



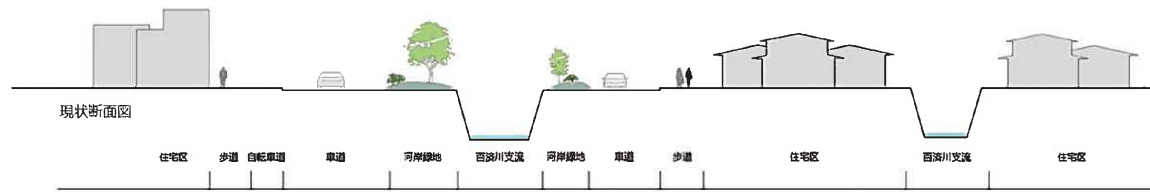
- 小範囲の風の循環
車の排気にもたらす熱環境を緩和するために、道路空間の緑量を加える。道路と市街地の間で空気の循環を創出する。



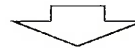
現在の緑



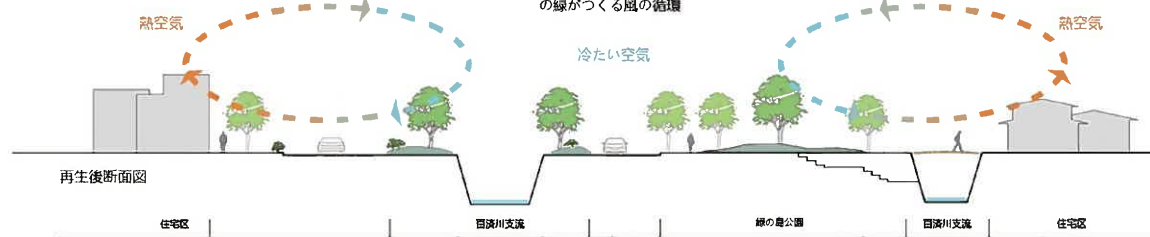
創出する一体の緑空間



現状断面図



加える道路の緑量と新たな公園の緑がつくる風の循環



再生後断面図

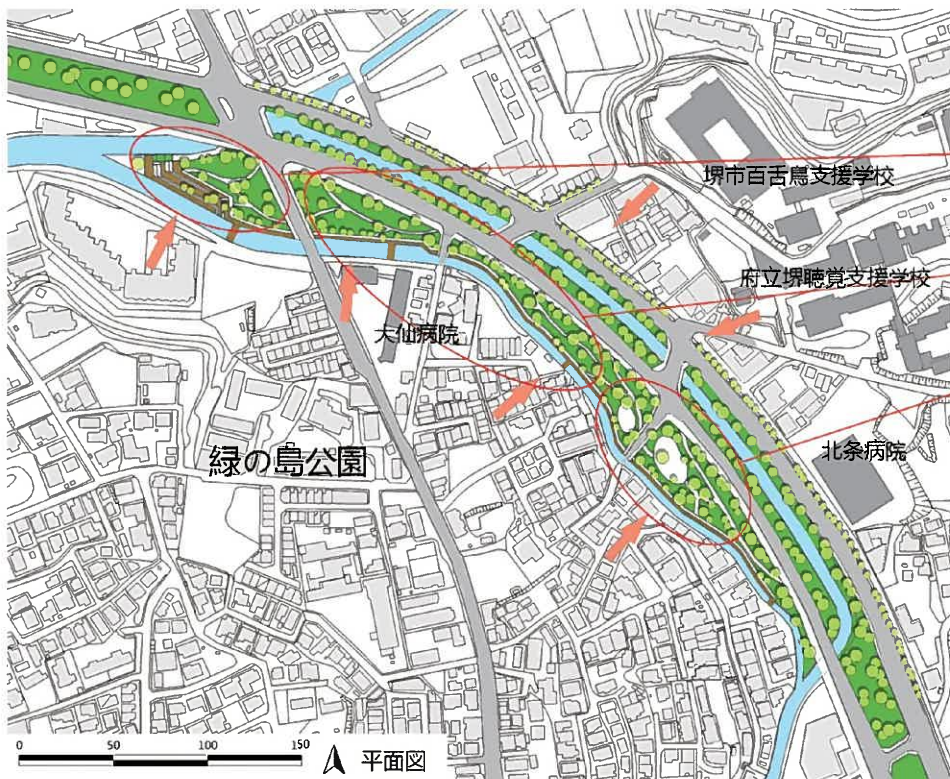
道路の両側に植栽帯を設けて、元の川岸で緑量を加える

新しい公園を作って、河川空間を利用し、適切な休憩、散歩、運動空間を創出する。

コンセプト

道路及び周辺住宅区の熱環境を緩和するために、道路と道路の間の河川空間の緑量を加える、同時に、道路両側の歩道に植栽帯を加える。

一方、敷地の中で一体の緑空間を創出するために百済川支流の間の市街地空間は新しい「緑の島公園」を設ける。



プログラム

周辺の住民と学生との利用のために、「緑の島公園」で3つの部分に分ける

- 親水利用
階段を利用し、親水空間をつくる。近所の住民がこの空間を利用できる
- 散歩、休憩利用
近所に病院があるから、病人与住民にとってこの空間を利用できる
- イベント利用
区域の中に広場を設ける。周辺の住民と学生がこの空間でさまざまな活動を挙げることができる



公園と西側の住宅区との隣接部分で木造の橋をつかって、住民が公園を利用しやすいである。



親水空間のイメージ



川岸で木造の遊歩道



ベンチが設けらる